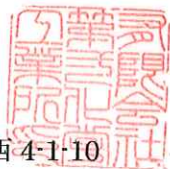


改訂日 2017 年 6 月 17 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	: 砂太郎
会社名	: 有限会社第一化学工業所
住所	: 奈良県生駒郡三郷町勢野西 4-1-10
電話番号	: 0745-72-7244
FAX 番号	: 0745-72-7391
緊急連絡先	: 0745-72-7244



2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 分類対象外

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分外
急性毒性 (経皮) : 区分外
急性毒性 (吸入 : ガス) : 分類対象外
急性毒性 (吸入 : 蒸気) : 区分外
急性毒性 (吸入 : 粉塵、ミスト) : 区分外
皮膚腐食性/刺激性 : 区分外
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 区分外
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 区分外
生殖細胞変異性原生 : 分類外
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性) : 分類できない
水生環境有害性 (長期間) : 分類できない
オゾン層への有害性 : 分類できない

ラベル要素

絵表示 : ー

注意喚起語 : ー

危険有害性情報 : ー

<取扱注意>

- <安全対策> ・ 取り扱う前に、「安全データシート」をよくお読みのうえ作業して下さい。
- ・ 火および高温のものから遠ざけてください
- ・ 飲み込んだり、吸い込んだり、眼、皮膚に触れないようにし、取り扱い中は、保護眼鏡、保護手袋、保護マスクなどの適切な保護具を着用して下さい
- ・ 取り扱い後は、手、顔などをよく洗いうがいをして下さい。

- <応急処置> ・ 火災時には、炭酸ガス、粉末または泡消火器で初期消火に当たり、火災が広がった場合は、泡消火剤または多量の噴霧水で消火して下さい。
- ・ 飲み込んだ場合は口をすすいで下さい、無理に吐かせないで下さい。
- ・ 吸入した場合は空気の新鮮な場所で、呼吸しやすい姿勢で休息させて下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合は多量の水と石鹸で洗って下さい。
- ・ 眼に入った場合水で数分間注意深く洗って下さい。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外して下さい。その後も洗浄を続けて下さい。
- ・ 暴露または暴露の懸念がある場合は医師の診断/手当を受けて下さい。

- <保管> ・ 容器を密閉して換気の良い場所で保管して下さい。

- <廃棄> ・ 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理して下さい。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分及び含有量 : クリノプチロライト系天然ゼオライト
アクリル酸重合体部分ナトリウム
わさび香料
水

化審法番号 : 「あり」または「対象外」

安衛法番号 : 「あり」または「対象外」

CAS No : あり

危険有害成分及び不純物：

クリノプチロライト系天然ゼオライト
アクリル酸重合物のナトリウム塩
わさび香料
シリカ
アルミニウム水溶性塩

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに石鹸と水で付着部分をよく洗う。外観に変化があるか痛みが続く場合は、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄な水で 15 分以上洗眼（まぶたの裏までよく洗う）した後、速やかな医師の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水で口の中を洗わせる。大量に飲み込んだ場合は、医師の診察を受ける。
- 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 二酸化炭素、粉末、泡、水噴霧
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 特定の消火方法 : 火元への燃焼源を絶ち、消火剤を使用して消火する。
- 周囲への設備などに散水して冷却する。
- 消火を行う者への保護 : 粉塵が飛散した場合は燃える可能性があるため、消火活動は、可能な限り風上から行い有毒なガスの吸入を避ける。
- 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出防止、除外などの作業は、必ず、保護具（手袋、保護眼鏡）を着用する。
- 水分を吸収しゲルとなったものは滑りやすいので注意する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材
- : 付近の着火源となるものを取り除く。
- 漏出したものをすくいとり、または掃き集めるなど、粉塵の飛散しない方法で空容器に回収する。
- 残留物は真空中で吸い取る等して、粉塵の飛散しない方法で取り除く。
- 残留分が極少量の場合は、大量の水で洗い流す。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策 : 作業場の換気を十分に行い、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。

局所排気・全体換気 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

強酸化剤との接触は避ける。

火気を近づけない

粉塵が滞留すると爆発の恐れがある。

袋が破損しないように、水濡れや乱暴な取扱いは避ける。

安全取扱注意事項 : 取扱後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

保管

適切な保管条件 : 高温、多湿の場所を避け、通気の良い屋内で密封保管する。
高温多湿下で長期間保管することにより着色するおそれがある。

吸湿すると品質劣化を起こす。吸湿しないように注意する。

包装容器材料 : 製品使用容器に準ずる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

: 蒸気、粉塵またはヒューム、ミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

粉塵が滞留する場合は、機器類は防爆構造とし、設備は静電気除去対策を実施する。

取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度

: 設定されていない

保護具

呼吸器の保護具 : 粉塵が発生する作業環境下では防塵マスクを使用する。

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

目の保護具 : 側板付き保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状 : 粉末状
色 : 白
臭い : わずかなワサビ臭
pH : 5.5～6.2

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

沸点 : データなし
融点 : データなし
引火点 : データなし
発火点 : データなし

爆発特性

爆発限界 : データなし

溶解性

溶媒にたいする溶解性 : 水・・・不溶 (ゲル化)

トルエン、メタノール、酢酸エチル (不溶)

粘度 : データなし
粉塵爆発性 : データなし
蒸気圧 : データなし
分解温度 : データなし
n-オクタノール/水分配係数 : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常取り扱い条件においては、光、熱、衝撃に対して化学的に安定

危険有害反応性の可能性

: 強酸化剤とは反応して危険

避けるべき条件 : データなし

混合危険物質 : 強酸化剤

危険有害な分解生成物 : データなし

その他 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性：咳込むことがある

皮膚腐食性／刺激性：皮膚に付着した場合、稀に体質により、カブレたりする場合があります。

眼に対する重篤な損傷／刺激性：充血する場合があります

生殖細胞変異原性：情報なし

発がん性： IARC = 情報なし NTP = 情報なし

生殖毒性：情報なし

12. 環境影響情報 生態毒性：

魚類：情報なし

甲殻類：情報なし

藻類：情報なし

残留性/分解性：情報なし

生体蓄積性(BCF)：情報なし

土壤中の移動性 オクタール水分配係数：情報なし

土壤吸着係数(Koc)：情報なし ヘンリー定数(PaM3/mol)：情報なし

13. 廃棄上の注意 適切な保護具を着用する。 地方条例や国内規制に従う。 焼却処理する場合には、可燃性溶剤に溶解または混合した後、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。 空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。 処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

14. 輸送上の注意 国連分類： 国連の分類基準に該当せず。 国連番号： 該当なし。 輸送の特定の安全対策 及び条件： 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行い、法令の定めるところに従う。

15. 適用法令 ・該当なし

16. その他の情報 記載内容の問い合わせ先会社名

・この MSDS は、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。ご購入いただいた商品は、安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。また記載の注意事項は通常の取扱を対象としたものであって、特別な取扱をする場合は状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払う必要があります。すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』

る』という認識で扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方のみ、あるいはそれらの方々の指導のもとで取扱うことを警告します。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。